資料１

令和８年６月３日開催
令和８年度 第１回朝来市環境審議会における指摘と対応

区分		指摘事項	対応（案）
報告事項（２）朝来市における生物多様性の課題について			
1	事業者の生物多様性保全活動の紹介について	事業者は生態系サービスの恩恵を受けていると思われるが、自分たちのビジネスと生態系とのつながりや、具体的にどのように生物多様性保全活動に取り組めばよいか分からない状態だろう。朝来周辺の事業者ができる取り組みの事例集がコラム等で提示されていると、自分たちのビジネスと生態系のつながりに気づくことができるだろう。[増原委員]	ご指摘を踏まえ、朝来周辺の事業者ができる取り組みの事例などを戦略本編のコラム等で提示することを検討いたします。
2	有識者意見の取り扱いについて	河川の河床を掘り下げているため地下水位が低下しているという有識者の意見が記載されているが、地下水を保つために河床を掘り下げている事例もある。一専門家の意見をそのまま使ってよいのか検討が必要である。[増原委員]	本資料は審議会用の課題整理資料であるため発言されたままを掲載しています。戦略本編への掲載については検討いたします。
3	「鎮守の森」という文言の使用について	「鎮守の森」という言葉について、「社叢林」という言葉に変えてはどうか。難しい言葉としてあえて「鎮守の森」を使っているかと思うが、「社叢林」という言葉が死語になってしまうため、使ってはどうかと思う。[椿野副会長] ➡「社叢」も「鎮守の森」も意味としては同じ。最近は「鎮守の森」という言葉が入ったタイトルの本がよく出版されており、「鎮守の森」という言葉の知名度も上がっているだろう。「社叢」という言葉を使うことも一つの意見として検討して欲しい。[石田会長]	いただいたご意見を踏まえ、どちらの言葉を採用するか事務局で検討いたします。
4	「落葉広葉樹林の減少」の示し方について	アンケートの自由記述に落葉広葉樹林の割合が減ったと書いてある。落葉広葉樹林の減少は、陸地の生物多様性だけでなく、河川の多様性にも大きく影響しているだろう。高齢者の方が感じている落葉広葉樹林の減少について、データで示せると良い。[高木委員] ➡戦略の中で示す現存植生図と植林前の植生図を比較すると、環境の変化がわかりやすく、市民の環境に対する認識も変わると思われる。ぜひ実現していただきたい。[石田会長]	国土地理院のホームページより、米軍撮影の航空写真を確認しましたが、画質が荒く判読が困難なため、今回の対応は見送らせていただきたいと思います。

区分		指摘事項	対応（案）
協議事項（1）朝来市生物多様性地域戦略の作成について 「めざしたい姿（将来像）」「基本戦略」「状態目標」「行動目標」の検討			
5	基本戦略④の文言について	「みんなの力で」という言葉が漠然としており、「私のことではない」と捉える人もいるのではないか。［天野委員］ ➡スローガンにも「みんな」という言葉が入っている。自分も含めてみんなで協力して自然を守って行こうという意味があるため、「みんな」という言葉でも良いのではないか。［石田会長］ ➡基本戦略4は連携がキーワードだろう。「連携して」や「協力して」などの文言を入れてはどうか。［高木委員］ ➡「みんなで協力して豊かな自然を未来につなぐ」でどうか。「協力」という言葉を盛り込み、事務局で検討してほしい。［石田会長］	ご意見を踏まえ、基本戦略④は「みんなで協力し豊かな自然を未来につなぐ」に修正し、確定といたしました。
6	行動目標について	行動目標の主語がほとんど行政である。市民が主体的に取り組むべきこととセットでないと、市だけの目標と捉えられてしまう懸念がある。［増原委員］	行動目標の下位に加わる施策を検討する段階で、市民がどのような行動をすべきかという視点を加えていきます。
7	数値目標の設定について	状態目標も行動目標も定性的に書かれており評価が難しい。環境基本計画と同様に数値目標を設定し、評価マネジメントすべきである。［増原委員］	数値目標については、第4次環境基本計画の数値や、自然共生サイトの関係の数値、行政が行うイベントへの市民の参加人数などを、評価指標として取り入れることを検討いたします。
8	行動目標①-4-1について	「市民が、気軽に安心して自然環境と触れ合える場所」を提供するのが、市民か行政かが不明瞭である。［天野委員］	「市民にとって、気軽に安心して」という意味で記載しましたが、行政主体だけで場所を用意するのは難しいため、市民などとの連携による実現を検討し、施策に加えたいと考えています。

区分		指摘事項	対応（案）
9	地域自治協議会への依頼およびそれに対する負担について	状態目標④-3 および行動目標④-3-1 の中でのみ、「地域自治協議会」という個別の団体名が出ているが、どのような意図があるか。［天野委員］ 多くの事業を地域自治協議会に委ねることは避けてほしい。既に様々な活動があり、資金も潤沢ではない。たくさんの事業を振られても限界がある。専門的な知識を持つ人がいればできることもあるのだが。［椿野副会長］	区の連合体である地域自治協議会へ依頼することで、施策を地域で実行できるという想定から記載したが、具体的な団体名を出すのではなく、全ての団体を対象とするかは検討いたします。 地域自治協議会への依頼が負担にならないよう、現在実施されている事業の中で生物多様性に関する内容を少し取り入れていただくことや、生涯学習課の人材バンクでのマッチング等を通じて効果を出したいと考えています。
10	アプリ等による情報発信について	情報へのアクセシビリティ不足に関して、朝来市は様々なアプリが乱立しているため、市民が混乱しないよう、適切な方法で情報発信してほしい。子育てに関するアプリ等も複数あり違いがよくわからない。［天野委員］	ご指摘の状況を確認し、関係課に意見を伝えるとともに、当課としても留意いたします。
11	目標に関係する主体の整理について	状態目標と行動目標について、行政にしかできないこともあるが、地域、市民、学校と協力することで達成できる目標もあるだろう。関係する主体について、整理されていると理解しやすいだろう。［岡田委員］	各施策に関係する主体を整理し、施策や取組に対して各主体がどのように関われば良いのかを、分かりやすく示したいと考えています。
12	行動目標の整理・統合について	行動目標がたくさんあるということは、達成すべき仕事がそれだけあるということである。例えば③-1-1 と③-4-1 は保全という言葉がかぶっているが、統合できないか。［野田委員］	取り組みとして同じ施策として合わせて取り組めるものは、施策において統合・整理できるよう検討いたします。
13	状態目標・行動目標の文言について	状態目標①-2 について、「昔ながらの暮らし」を受け継ぐとあるが、暮らしを受け継ぐことは難しい。「昔ながらの文化を受け継いでいく」などに文言を変えた方がいいだろう。［石田会長］	いただいたご指摘を踏まえ、より適切な表現や構成となるよう検討いたします。
14		行動目標③-1-1 にある「ホットスポット」は、本来「生物多様性が高く、かつ危機的な状況にある場所」を指す言葉である。ここでは、危機的な	

区分		指摘事項	対応（案）
		状況にある場所を指しているわけではないため、あえて使う必要はないだろう。［石田会長］	
15	「在来種の減少」という課題について	基本戦略③に対応する課題の最後に「在来種の減少」とあるが、これは開発や二次的自然の劣化等の課題を原因として生じる結果であり、他の課題と並列であげられることに違和感があるため、整理してほしい。［石田会長］	
16	事業者への支援について	状態目標④-2 において、市民や市民団体が必要としている支援について、行政や地域、事業者等が協力するとされているが、支援が必要なのは事業者も同じである。行動目標④-4-1 では「市民が情報にアクセスできるよう」とされているが、情報を求めてるのは事業者も同じである。表現を整理してほしい。［石田会長］	

以上